

グループホームって何？



小山さんへ取材する庄司リポーター(右)

掃除などを利用者とスタッフが共同で行い、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で生活を送ることにより、痴ほう症状の進行を穏やかにし、家庭介護の負担を軽減することを目的としています。痴ほう性高齢者にとって生活しやすい環境を整え、小人数の中で「なじみの関係」を作り上げることによって、生活上のつまづきや行動障害を軽減し、心身の状態を穏やかに保つことができます。

過去に体験したことのある役割を与えることで、潜在的な能力に働きかけ、高齢者の失われか

けた能力を再び引き出し、「以前の生活に近い状況を構築する」ことが可能になります。痴ほう性高齢者は、過去に体験した「想い」をその暮らしの中で展開できる、家庭に近い環境を必要とします。そのために、痴ほう性高齢者が混乱しないで普通の生活を送ることができるように介護することを、何よりも優先します。

痴ほう性高齢者は、集団の中で画一的な介護を受けていると、生活そのものが介護に支配され、自己が失われていくような不安を感じるそうです。そうした不安を感じさせないように、入居者への介護を主体とするのではなく、痴ほう性高齢者を「生活の主体者」ととらえ、個々の生活を重視し、残された能力を最大限に活用できるような環境を提供します。

《グループホームでの

日常生活は》

この基本的な考え方を念頭において、実際にグループホームで生活するうえで、利用者の日課や介護の状況について聞いてみました。

(Q) どのようなかたが、グループホームに入居できるのです

か。

(A) 介護保険の要介護度が1から5で痴ほう症のあるかた、共同生活ができるかた、常時医療を必要としないかたが入居できます。

(Q) 痴ほう性高齢者が生活していくう

えで、より良い「住居」とは、どのようなものだと考えますか。

(A) 普通のかたは、長年住みなれた場所、すなわち在宅での介護が一番であると考えられると思いますが、痴ほうの症状が出ますと、本人にとっては、「住みなれた家」よりも、「住みやすい家」で生活することが大切になります。

(Q) 入居者の日課についての決まりはありますか。

(A) 特に決まりはありません。入居者の「選択」と「自己決定」が優先されます。利用者があるがままの、自由な生活を送れます。

(Q) 食事の支度や洗濯などのいわゆる「家事」は、誰が行うのですか。



ゆったりとした個室

(A) 食事は共同で作ります。掃除、洗濯、買い物などは分担して行い、個々の役割を持っていたできます。もちろん、スタッフが個々の入居者の生活リズムに配慮し、残存能力を尊重した援助を行います。

(Q) 入居者の通院などには、どのように対応していますか。

(A) 通院される場所にもよりますが、通常はスタッフが車で病院への送迎を行います。遠くの病院に通う場合には、家族のかたに対応をお願いします。こともあります。

(Q) 部屋は、個室ですか、相部屋ですか。また、広さはどれくらいですか。

(A) すべて個室です。ただし、施設によっては、ご夫婦の場合一緒の部屋を希望されれば、